

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ)

岐阜県防災キャンプ推進事業

岐阜県教育委員会

【事業のポイント】

○想定される災害や被災に対し、関係機関と連携して、自治会などの地域住民や保護者の協力を得て、学校等を避難所とし、児童生徒を中心に防災キャンプ推進事業を実施する。

【写真】

防災キャンプin合渡【岐阜市プラットフォーム】
防災子どもサミットin合渡(グループ討議)の様子



1. 企画

(1) 事業実施の背景

東日本大震災等を契機として、防災に関する意識が高まる中、県内各地において、県内の各地域で想定される災害や被災時の対応を疑似体験するための事業が求められた。また近年増加傾向にある集中豪雨や、東海地方で将来的におこると想定されている南海トラフ巨大地震をふまえ特に、被災時に避難のための拠点となる学校や公民館での体験活動に対し、関心が高まった。

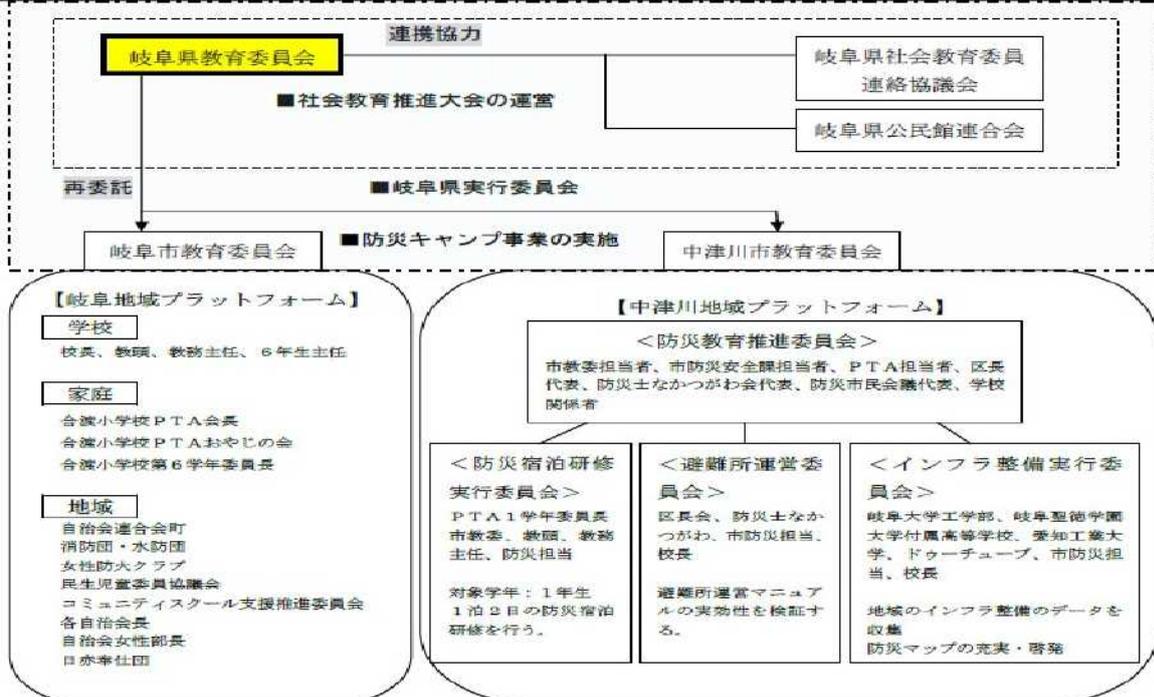
(2) わらい

学校や公民館を舞台に、学校や地域社会、関係機関・団体等が協力して、防災キャンプを実施することによって、防災の大切さを実感させる。また共通の体験を通して地域の一員としての自覚を育てることによって、地域プラットフォームの形成に資する。

また、防災キャンプの実践を学校教育・社会教育関係者に広く周知することを通して、防災教育の推進と地域防の防災活動の充実、および他地域の地域プラットフォームの形成の促進を図る。

2. 実施概要

(1) 実施主体



(2)開催実績	
月 日	内 容
4/9(木)	事業日程の調整及び運営体制の検討【中津川市】
5/20(水)	防災のための地域プラットフォーム形成のための委員会①【中津川市】
6/10(水)	防災キャンプ準備委員会【岐阜市】
7/3(金)	防災キャンプin合渡【岐阜市】1日目
7/4(土)	防災キャンプin合渡【岐阜市】2日目
8/24(月)	防災のための地域プラットフォーム形成のための委員会②【中津川市】
10/2(金)	岐阜県社会教育推進大会
10/5(月)	防災のための地域プラットフォーム形成のための委員会③【中津川市】
10/22(木)	坂本中学校区防災宿泊研修【中津川市】1日目
10/23(金)	坂本中学校区防災宿泊研修【中津川市】2日目
12/18(金)	防災宿泊研修スタッフ反省会【中津川市】
【防災キャンプ実施概要】	
①岐阜地域プラットフォーム【岐阜市】	
【活動名】防災キャンプin合渡	
【実施日】平成27年7月3日(金)～平成27年7月4日(土)	
【実施場所】岐阜市立合渡小学校	
【参加範囲】合渡小学校6学年児童及びその保護者と地域住民	
【参加人数】283人(合渡小学校6学年児童67名・保護者48名・地域住民168名)	
【プログラム内容】	
(1)「防災キャンプ準備委員会」	
・事業説明:事業趣旨、事業内容等説明	
・日程・役割の確認:タイムスケジュールの提案、役割や使用する備品などの確認	
・意見交流:人数や時間などの協議、修正	
(2)防災キャンプ	
～1日目～	
●災害図上訓練(DIG)	
校区のもつ自然災害の危険度の高さを把握し、安全な避難の仕方を考える。危険箇所を図上で確認し、安全に避難するために考えたことを全体で交流する。	
●救急救命講習	
心肺蘇生やAEDの活用の仕方を覚え、「あっぱくん」を使った実習を行う。	
●着衣泳	
水流の中や長靴を履いて水中歩行体験をすることで、浸水時の歩行の困難さや危険について理解する。	
●避難所設営	
備蓄庫から避難所に必要なものを搬出し、避難所を設営する。簡易トイレやダンボール間仕切りの設営の仕方について学ぶ。	
●夜間避難訓練(緊急地震速報①)	
「緊急地震速報」を聞き、懐中電灯を使って班ごとに運動場に避難する。	
●就寝(緊急地震速報②)	
就寝後に「緊急地震速報」を聞き、体育館の安全な場所な場所を見つけ、素早く避難できるよう訓練を行う。	
	
救急救命講習	
	
避難所設営	

～2日目～

●朝食

水道・ガスが出ない想定での簡易朝食の準備や試食を通して、非常食備蓄の重要性を理解する。

●防災子どもサミットin合渡(グループ討議)

地域の方々と、防災キャンプで学んだことを交流し、各学級で「合渡子ども防災宣言」案を作成する。

●防災子どもサミットin合渡(全体交流)

学級案を交流し、「合渡子ども防災宣言」を決定し、地域の方に発表する。



「緊急地震速報」対応の訓練

②中津川地域プラットフォーム【中津川市】

【活動名】坂本中学校区防災宿泊研修

【実施日】平成27年10月22日(木)～平成27年10月23日(金)

【実施場所】中津川市立坂本中学校

【参加範囲】坂本中学校1学年生徒及び地域住民と大学関係者

【参加人数】203人(坂本中学校1学年生徒139名・教員11名・地域住民18名・大学関係者35名)

【活動趣旨】

①宿泊体験を通して避難所での生活を知り、地域の防災リーダーとしての心構えをつくる。

②地域住民が研修に参加することを通して、地域ぐるみの防災を推進する意識を高める。

③研修の諸活動を通して、生徒一人一人が学年や学級への所属感を高める。

【プログラム内容】

(1)事業日程の調整及び運営体制の検討

(2)第1回防災のための地域プラットフォーム形成のための委員会

(3)第2回防災のための地域プラットフォーム形成のための委員会

(4)第3回防災のための地域プラットフォーム形成のための委員会

(5)防災キャンプ

震度7の大地震が発生し、避難所に避難してきたことを想定して実施

～1日目～

●宿泊研修ガイダンス

●命を守る訓練

大地震発生時の想定で全校生徒実施

●避難所運営ゲーム(HUG)

●防災オリエンテーリング(生徒による地域防災点検)
学校周辺の施設、危険箇所を点検し、地図に記入しながら地域を回る。

集めた情報を交流し、地図への記録や画像を印刷しまとめる。

●避難所夕食体験(パッククッキング)

ガスコンロ・大鍋を利用して訓練を行う。

●避難所宿泊体験(避難所パーティション設営演習)

体育館にダンボールで避難所パーティションの設営を行い、就寝の準備を行う。

●学級ミーティング

何を感じたか、困ったこと、問題を解決する方法、中学生ができること、日頃から準備しておくことなど、一日を振り返り学習のまとめを行う。

～2日目～

●災害図上訓練(DIG)

前日の点検結果を基にした地図を使って災害訓練を行う。



避難所運営ゲーム(HUG)

(3) 推進月間の設定

特に設定していない

(4) 事例の収集と発信

○事例の収集○

○同一地域プラットフォームで実施される防災関連の取組の事例収集

【岐阜地域プラットフォーム】

●9月6日(日)三輪南地域防災訓練

・シェイクアウト訓練

・災害対策本部設置

・各訓練の実施(バケツリレー、救出訓練、救護訓練、炊き出し訓練、水防訓練、消火訓練、)

【中津川地域プラットフォーム】

●5月20日(水)坂本地区(幼保小中)合同一斉引き渡し訓練

・幼保小中約1389名が一斉に行う引き渡し訓練

●7月2日(木)水難防止教室(付知中学校)

・福井大学の協力を得て、付知川にて実施。北消防署も全面協力

●8月30日(日)第一中学校を拠点とした防災訓練

・第一中学校の防災設備をひろく地域市民が理解し、中学生が主体とした避難所としての機能を啓発する。

●12月1日(火)防災教育(災害時の対応)(落合中学校)

・防災士なかつがわ会による出張授業。大災害が起こったときの初期対応。「自分の命は自分で守る。」

●1月15日(金)災害図上訓練(DIG)(阿木小学校)

・防災士による講義

●1月21日(木)地域協働型インフラ型子どもと実践する通学路点検(付知北小学校、付知南小学校)

①インフラに関わるアンケートの実施(親子)

②基調講演(安全な通学路を目指して)

③子どもと実施する通学路点検

④通学路清掃と簡易補修

○事例の発信○

(1)「岐阜県社会教育推進大会」の全体会で、防災キャンプに関する実践発表を行った。

【実施期日】平成27年10月2日(金)

【参加人数】490人

【参加対象】行政(教育委員会等)関係者、学校関係者、公民館関係者、社会教育団体関係者 等

(2)実施報告書の作成

【趣旨】防災キャンプの成果を普及するため、県内市町村教育委員会等に、実績報告書を送付するとともに、県HPに掲載し、防災の啓発に努める。



社会教育推進大会 発表の様子



社会教育推進大会 発表使用スライド

(5) 意見交換の場の設定

○社会教育主事等研修会において、防災キャンプ実施について報告し、情報提供を図るとともに意見を求めた。

(6) 新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

○「ふるさと岐阜を世界に発信！」プロジェクト

小・中学生が動画を用いて、英語でふるさとの魅力を発信する「岐阜県英語ふるさとプロモーションコンテスト」において、岐阜県英語ふるさと副教材等を参考にして、ふるさとを知り、地域の方々と関わっていく中で、「ふるさと岐阜」への誇りと愛着を育み、地域社会人としてのアイデンティティを高め、グローバル社会で活躍する人材の育成に資する。

①岐阜県英語ふるさと副教材作成事業

・県内全42市町村の「ふるさとのよさ、自慢」である自然、歴史、伝統文化、産業などを英語で紹介する英文を掲載した「岐阜県英語ふるさと副教材」を作成、県内小学校第6学年児童、中学校第2学年生徒へ配布し、外国語教育や国際理解教育、総合的な学習の時間などで活用する。

②岐阜県英語ふるさとプロモーションコンテスト

・ふるさとの自然や歴史、伝統文化や産業などについて、英語を使ってプレゼンテーションする動画を募集し、優秀作品を表彰する取組を実施する。

3. 成果と課題

(1) 事業成果

①連携の深まりと他地域への広がり

＜県社会教育推進大会の全体会における事業報告＞

・今年度の事業事例や事業効果を県内社会教育関係者約500名に報告し、地域ぐるみで体験的な防災教育プログラムを実施する必要性を訴えた。

＜事業実施後の地域の自主的な取組＞

・事業を実施した岐阜市合渡地区では、事業実施後も、継続して地域における防災訓練を行っている。11月21日(土)には規模を拡大し、児童を含め800名程度の住民参加による新たな被災状況を想定した訓練を行った。

＜他地域への広がり＞

・事業実施地域以外にも、事業実施地域の事例を参考に地域ぐるみの防災訓練を行った地域がある。事業実施により、地域連携のノウハウが県内に広がりつつある。

②参加者意識の変化

＜子どもの意識の変化＞

・「合渡子ども防災宣言」において、児童が家庭や地域に向けて「私たちは、地域の一員として危険な場所や安全な場所を調べ、災害時に冷静に判断し、自分の命は自分で守ります」、「私たちは困っている人を助けるために協力しながら避難します」、「私たちは、日頃から地域の方と一つの家族となって協力して活動します」、「私たちは、災害が起こる前に身を守るための正確な情報や知識を集め、災害時にはそれを生かします」の4つの宣言を行い、児童たちが地域の一員として行動できることとして発信することで、自助だけでなく、共助の意識を新たに持つことができた。

＜地域住民の意識の変化＞

・参加者からは、「学校と地域の連携を意識したより学びのある実践的な体験活動の重要性を再認識し、今後も地域住民としていざという時に協力することができるネットワークを作っていく必要がある」という意見が多く聞かれた。

③専門家の協力による知識の習得

＜地域の現状に即した知識の習得＞

・日頃から地域防災において中津川地域で活動している「防災士なかつがわ会」による指導のもと、地域の一員として被災時に自分たちにもできるパッキングや避難所パーティション設置演習等を体験し、実際に役立つ知識と技能を身につけた。

＜研究機関による最新の防災知識の習得＞

・岐阜大学、岐阜聖徳学園大学、愛知工業大学などの研究機関から専門的な防災情報の提供や指導を受け、地域のインフラ点検や災害図上訓練などについて実践的な体験活動を効果的に進め、地域住民の連携の在り方を確認することができた。

④小中連携の充実

・事業を実施した中津川市坂本地区では防災キャンプ実施後、中学生が校区の小学校児童に対し、事業を通して学んだことを伝え、児童の防災意識を高めた。「地域ぐるみの防災意識」を広めるきっかけとなった。

(2) 事業運営上の課題

<実施拠点の設定>

- ・本年度、学校や教育委員会が主体となってプログラムを計画・実施したが、学校における児童生徒の活動が中心となり、そこに地域住民が参加するという内容が多かった。今後地域住民が中心となり、関係機関の参加や連携を促進していくためには、公民館等を活動拠点とした実施が不可欠である。

(3) 事業成果の普及啓発の課題

- ・事例の発信について、本年度「岐阜県社会教育推進大会」で実践発表を行ったが、対象者は社会教育関係者が主であり、幅広い周知ができなかった。また実施報告書の作成をし、県HPに掲載し、防災の啓発に努めているが、プラットフォーム形成の参考事例として、防災キャンプ推進事業の他地域への普及のために、多方面の対象者へ直接事業成果を発表できる場を設定し、普及啓発を行うことができるようにしたい。

4. 団体プロフィール

岐阜県

〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1
担当課:岐阜県教育委員会社会教育文化課
TEL:058-272-1111(内3575)
FAX:058-278-2824

